山梨県埋蔵文化財センター報

埋文やまなし

第53号
2017.03/09

http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/

過去への好奇心は未来への展望
明日を探すあなたに「埋文やまなし」

写真：新井田館跡（南三陸町）2013年
南三陸町教育委員会提供

東日本大震災復興支援事業

平成23年3月11日に発生した三陸沖を震源としたマグニチュード9.0、最大震度７の東日本大震災。尊い多くの人命とともに、そこで暮らす人々の日常をも奪いました。そんな震災からすでに6年あまり。この間に復興事業が進められ、高速道路の開通、高台移転地の造成などが進められてきました。

復興事業が開始された当初、新たな開発計画地には、場所によっては先人の生活の痕跡である「遺跡」がありました。こうした遺跡の発掘調査には、多くの論議がありましたが、その地域で生きてきた先人たちの歩みと、その地域だからこそ積み重ねられたものを明らかにし、それを次世代につないでいくために今も調査が行われています。

宮城県、岩手県、福島県の3県での発掘調査には地元の文化財専門職員に、全国から派遣された職員が加わりました。平成24年度から派遣が始まり、28年度までに延べ300名を超える職員が全国から派遣されました。こうした職員の中には、山梨県の職員も含まれています。山梨県からは5年間に宮城県へ3名（うち1名は笛吹市職員）、岩手県へ1名、福島県へ2名の合計6名が派遣されました。

本年度で山梨県からの職員派遣は一旦終了します。この5年間に私たちは多くのものを得ることができました。震災直後の慣れない土地で、他県の職員とともに、山梨県では珍しい、または大規模な遺跡を調査したこと。その経験は、復興の一助となっただけではなく、山梨県にももたらされたものがあるのではないでしょうか。そしていったい、それは何なのか。

今回は、「復興支援」を特集します。

甲府城の石垣維持管理

こまめな点検が重要です。

甲府城の石垣に貼られたプラスチックの板…これ、なんだかわかりますか？　実はこれ、石垣の石に動きがないか調べるために設置したものなんです。

甲府城では、他にも目で見る点検や、甲府城の石垣を知り尽くしている石工による点検など、石垣の健康診断を実施しています。また併せて補修も実施しながら、石垣の長寿命化を図っています。

石垣の研究者による検討会などの実施や、1月に開催された第14回全国城跡等整備調査研究会にて甲府城の石垣維持管理の方法を報告し、全国から関心がよせられています。

このように、全国から注目されている甲府城自慢の野面積みの石垣を未来の子どもたちに伝えていきましょう！

【説明してくれた人】久保田文化財主事・甲府学問所徽典館普請方教授

レッツ 埋文センター

何をしているところ？埋文センター

埋蔵文化財センターでは、発掘調査以外でも、今年度おこなった調査のまとめ、史跡・考古資料などの普及事業の新年度計画を行っています。今回は、甲府城の活用に欠かすことのできない石垣維持管理の活動のようすと今年度10月に山梨市で発掘調査が終了した遺跡のその後を取りあげます。

上コブケ遺跡整理作業

とっても大事！注記作業

西関東道路建設のため平成28年5月より調査を行っていた山梨市の上コブケ遺跡。10月に調査を終了し、現在は埋蔵文化財センターで整理作業を行っています。

上コブケ遺跡から発掘された土器や石器は段ボール箱に換算して約85箱。これらを水できれいに洗い、時代や種類ごとに分類して「注記」を行っています。

「注記」とは、土器や石器に「遺跡名」「遺構名（出土した場所、住居や溝など）」「見つかった日」などの情報を記入することです。手書き、または専用の機械を使って、ほぼ全ての土器や石器などの遺物に記されます。とても地道な作業ですが、注記をすることで土器が迷子になることを防いだり、博物館で展示したり、貸出を行うことが出来るのです。

専用機械で土器に文字を注記したところ。

専用の機械で注記するようす。

手書きで注記するようす。

編集後記

昨年度は失敗したトチのアク抜きが今回は上手くいきました。非常に難しいと思っていたトチのアク抜きですが、タイミングとコツを経験者から教えてもらったところ、1週間程度で食べられようになりました。
イベントに参加して頂いたみなさんに試食して頂いたところ、とっても好評でした。（池）

埋文やまなし　第53号
発 行　山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町 923
☎055-266-3016
印 刷　株式会社峡南堂印刷所